

60年の足跡から近未来へ繋がる第1歩を!

私が所属している上野原機械器具工業協同組合は、戦後の荒廃した時代に発起人4人により協同組合法制定後、県内第1号の組合として昭和29年に設立され、一昨年創立60周年を迎えました。設立後、組合員企業は日本の高度成長期時代とともに、設備や人材を増やしながらか大きく成長してきました。

しかし、その後日本経済にとって大きな試練であるオイルショック、高度成長期の終焉とバブル経済の崩壊、更には中国や東南アジアへと生産拠点を流出による国内製造業の空洞化、近年ではリーマンショックなどにより、我が国の製造業の経営環境は大きく変化してきました。最盛期に64社あった組合員企業も、現在では39社までに減少、組織力の低下などが懸念される状況となっています。

今後、少子高齢化社会を迎え、労働力不足に加え需要の低迷も予測されます。企業の生き残り対策として、人材育成や高い技術力を持った労働力

の確保、社員教育、新商品開発や付加価値の高いものづくりへの転換が必要だと思っています。

上野原市の主要産業である製造業の生き残りに向けて、当組合が中心的な役割を担っていくことで、いずれは地域経済の活性化にも繋がると考えています。

上野原地域は、都心より60キロ圏内という恵まれた立地に加え、圏央道の延伸により東名高速・関越自動車道と連結し、横浜を始め埼玉、群馬、新潟とも短時間での移動が可能な流通環境が整いました。また、2020年の東京オリンピック開催やリニア東京-名古屋間の開通など、物や人との交流が今後ますます活発になることが予想されます。

こうした変化をビジネスチャンスと捉え、組合として組合員企業間の連携を強固にし、技術力を高めるための研鑽に取り組み、上野原地域の発展に繋がりたいと考えています。

